

# かけ橋

第 28 号  
編集・発行  
願船坊  
R 2 年 7 月



## 門主 大谷光淳

まず、この度の新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた国内外の多くの方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆様にも心よりお見舞い申し上げます。感染リスクにさらされながらも、賢明に治療、対策にあたられている医師、看護婦を始めとする医療従事者の方々、ライフラインの維持に努めておられる方々に深く敬意と感謝を表します。この感染症は専門家の方にもわからない点が多くあります。そのような中で、懸命に治療に当たられている医療従事者の方やそのご家族、残念ながら亡くなられた方やご遺族、まだ治療中の方や回復された方が、いわれのない誹謗中傷を受けて差別されたり、排除される事例が少なからず報告されています。差別する側の人には、自分自身や家族は感染することはないと言う根拠のない思い込みがあるのでないでしょうか。収束のめども立たず、感染防止のための自粛生活によるストレスなど、やり場のない怒りや苦しみから逃れるために単純に物事を善と悪の二つに分け、自分を善の側に置き、自分と異なる立場の人々を悪として非難し排除することが、

非常に危険な考え方である事は、今日の世界情勢を見ても明らかです。また、感染拡大を抑えるためには、現場では人と人との接触を減らす事しかありませんが、そのために社会から孤立したり、生活の維持が困難となつていられる方も多くおられます。それぞれの地域の事情に応じた取り組みもなされていますが、私たちは社会の一員として困難な状況にある方へ思いを寄せて、できることから始めてまいりましょう。仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を「諸行無常」と「縁起」と言う言葉で表現します。新型コロナウイルス感染症と言う新たな病気に直面する社会において、仏教の説く真実は私たちの心に届き、これからの生き方を示しています。新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の「状況分析、提言」は、「新しい生活様式」への移行を求めています。それは、私と他の方々の「命を守る」ための行動が必要だからです。私たちは感染拡大前の社会や生活に完全に戻る事はできないかもしれませんが、すべての人々はお互いに関わり合い、大切な命のつながりの中で生きていくのですから、「誰一人取り残さない」と言う理念を持ち、これからも仏教や浄土真宗のみ教えを伝えるお寺が、人々のよりどころとなるよう、社会の中でできることを実践してまいりましょう。

## 日本学術会議 会長 山極壽一先生のおはなし

山極（やまぎわ）先生は、アフリカでゴリラの生態を四十年にわたり研究された第一人者で、人間独特の社会の在り方、人間とは何かを研究されています。新型コロナウイルスは人類が進化の過程で獲得しています。新型コロナウイルスは人と言われます。左記は先生のお話から抜粋です。

### 人間らしさの危機

人間は有史以来、集まるといふことと、移動しているんなものや人に出合つて、社会を作ってきたといふこと。人間は生物なので、集まつて様々な違いを前提にしながら接触して協働する。このことを今回奪われてしまった。猿や類人猿など、人間に近い生き物が出来ないことを人間はやってきた。例えば、音楽で多くの人が一堂に会し、心を一つにすることが出来る。言葉以前に人間はそういう共鳴社会を作り上げた。だからこそ、人間は一つの集団を出て、ほかの集団にやすやすと入つていき、見知らぬ人たちともすぐに手を組める共感を感じることが出来る。そういうものが、いま禁止され奪われてしまう事態になりつつある。それをどうやって復活できるかを考えないといけない。そのためアイデアが、今必要な時代だと思う。これまで仮想空間、インターネット、ロボットの力は人間の共感力を阻害すると言つてきていたが、逆にそれに頼らなくてはいけないのが、今のチャレンジであつて、フェイスブックで画像を撮り「こんなことやつてた」と言い合うのは、要する

にあいさつ。人間がもともと持つていた社会的要求、人とながりたいといふ要求を満たしている。しかし、これは信頼関係を作ることにはならない。なぜなら、信頼関係を作るには効率性を重んじない、ゆつくりとした時間の流れに身を任せながら、他者とじっくり付き合うことが必要で、そのことを経験しなければ信頼関係は醸成されない。しかし、それが絶たれてしまった今、そういう関係を維持するために積極的にSNSを利用するべきだと私は思う。

### 家族との距離

私たちはこれまで、一日中家族と一緒に暮らさないことを前提に、今の暮らしを設計してきた。家族は普段付き合つている仲間と違つて性も年齢も違ふ。身体的なつくりが違ふ。その違ふ性質を持った人間同士が、いかに協力し共感し生きるかを一日中させられている。私が長いこと研究しているゴリラは、当たり前のようにそれをやっている。彼らを見習えばいい。人々がそれぞれみんな違ふといふことを前提にする自覚は、今度の新型コロナウイルスの時に出来たものではなかつたかと思う。そういうことを前提にしながらグローバルな社会を再構築できるのでは。再び国境を開いた時に、もっと人々は寛容になれるのではないか。連携の仕方がこれまでとは違ふ形で行われていくのではないかという気がする。

## 住職のひとこと

### 今こそ問われる《生き方》

今、私たちの生活は大きく変化しています。外出制限や自粛生活は、自分の命を守る行動であり、自分を取り巻く大切な人の命を守る行動でもあります。ところが、こうした自粛生活が続いた結果、私たちに潜在したものが顕在化してきたように感じます。

前出のご門主さまのお言葉にもありますが、コロナによるストレスによってやり場のない怒りや苦しみから逃れようとして様々な問題を起こしているのが、今の世の中で起きているありさまでしょう。正に《不寛容》な世界観が広がっているように思います。「不寛容は恐怖から生じる。不安は無知から生ずる。不寛容を払拭するには科学的根拠に基づく正確な情報」が必要であると指摘された方がありました。

山極壽一先生は、日本学術会議の会長でもあります。この学術会議では、科学の情報を社会と共有することが、この危機を乗り越えるうえで、重要な力になると考えておられます。日常的会話と意味のある会話は分けなくてはいけないのですが、それをこっちゃんとしてSNS上でやっているのが今の実態です。だから、これをうまく利用できるものをお互いが自覚し、制度上も作り上げないといけないとおっしゃっています。この日本学術会議は大規模感染症予防・制圧のための検討委員会を立ち上げ、データを公開しています。

そのデータをもとにして様々な方策を地域の特性・分野に応じて作っていく、誰もが参加する『シチズンサイエンス』のさきがけを、学術は責任を持って果たしていかなくてはならない、と先生はおっしゃられていました。

SNSやメディアで取り上げられる色々な事柄には、何を信じて何がいがわしいのか、無知な私に選別する力はありません。しかし、私にはたったひとつ頼りになる《有ること》があります。それは、いろんな方々のお話の中の《あるフレーズ》に反応するのです。今までにお聴聞したお話の中で聴いたことのある《あるフレーズ》に、まるでリトマス試験紙で色が変わる反応のように、私の頭の中で反応するものとそうでないものがあるのです。その反応を頼りにするしかありません。聖人のお話の中に《お念仏に導く存在を：観音の化身である》というのがありますが、私にとって山極先生はもしかすると、観音様なのかもしれないですね。

もし関心が湧かれましたら、【日本学術会議】と探してみてください。

### 《お勧めするもの》

『本願寺新報』という本山からの情報誌があります。月に3回の発行です。年間購読料は四千八十円です。

## 新しいお聴聞のかたち

昨今は新型コロナウイルス感染症への対策として、自宅等で仏さまの話をお聴聞できる動画を、本山等では順次配信しています。

ご自宅でパソコンを使える方、携帯で閲覧できる方、または若い世代の方にお手伝いを頼める方、どうぞ、新しい形のお聴聞をなさってみてはいかがでしょうかでしょう。

本山（お西さん）HP <https://hongwanji.or.jp>

Top ページの左側より下に見ていき青色の四角の

Web Broadcast を開くと、「お西さんを知ろう」など、いろんな講話や記事があります。

東京築地本願寺 HP <https://tsukijihongwanji.jp/>

Top ページの右側より下に見ていくと、Live 配信というのが出てきます。

## ☆お知らせ☆

### 平和コンサート

九月十三日(日)午後二時～・四時～(二回公演)

仏教婦人会法要(渡邊 幸司師)

十月二十二日(木)朝席・昼席

秋供養・報恩講法要(浅野 執持師)

十二月三日(木) 昼席・夜席

四日(金) 朝席・昼席

ゆく年くる年コンサート

十二月三十一日(木) 夜十一時四十五分より

除夜会 十二月三十一日(木) 夜十一時四十五分より

修正会 一月一日(金) 朝十時より

### 《再開しました》

☆朝活(朝コン) 毎週水曜日 朝六時半～七時

☆仏教壮年会 毎月第二水曜日 午後七～九時

☆仏教婦人会 毎月十六日 午後一時半～三時

《今しばらくの休止です》

☆コールKUSHIRA ☆日曜学校

お寺のホームページです。

<http://www.gansenbou.com>